



選ばれつづける仕事。

ニチレイロジグループ

2025年度事業報告会

2026年5月18日

食からひろがる幸せを、ニチレイが未来へつなぐ

Copyright © Nichirei Logistics Group Inc. All rights reserved.

1. 企業概要

2. 2026年3月期 決算概要

3. 中期経営計画

①進捗状況

②2026年度重点施策

4. 参考資料

1. 企業概要

[組織体制]

(株)ニチレイロジグループ本社 (持株会社)

2026年5月15日現在
子会社46社 関連会社5社

国内事業

(株)ロジスティクス・ネットワーク

(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道

(株)ニチレイ・ロジスティクス東北

(株)キョクレイ

(株)ニチレイ・ロジスティクス東海

(株)ニチレイ・ロジスティクス関西

(株)ニチレイ・ロジスティクス中四国

(株)ニチレイ・ロジスティクス九州

(株)NKトランス

(株)ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング

海外事業

欧州事業

Nichirei Holding Holland B.V.

HIWA Rotterdam Port Cold Stores B.V.

Thermottraffic B.V.

Thermottraffic Ltd.

Admark Shipping Solutions Ltd.

Thermottraffic GmbH

Frigo Logistics Sp.z o.o.

Armir Logistyka Sp. z o.o.

Transports Godfroy S.A.S

Entrepots Godfroy S.A.S

ベトナム事業

Nichirei TBA Logistics Vietnam LLC

中国事業

日冷物流投資（上海）有限公司

上海鮮冷儲運有限公司

上海鮮米運物流有限公司

江蘇鮮華物流有限公司

南京鮮華物流有限公司

浙江鮮一百物流有限公司

タイ事業

SCG Nichirei Logistics Co.,Ltd.

マレーシア事業

Nichirei Logistics Malaysia Sdn.Bhd.

Thermottraffic Asia(Malaysia) Sdn.Bhd.

Litt Tatt Enterprise Sdn.Bhd.

Litt Tatt Distribution Sdn.Bhd.

Integrated Cold Chain Logistics Sdn.Bhd.

Kris Bayu Sdn.Bhd.

ICCL Distribution Sdn.Bhd.

注) Thermottraffic・・・テルモトラフィック

1. 企業概要

2. 2026年3月期 決算概要

3. 中期経営計画

① 進捗状況

② 2026年度重点施策

4. 参考資料

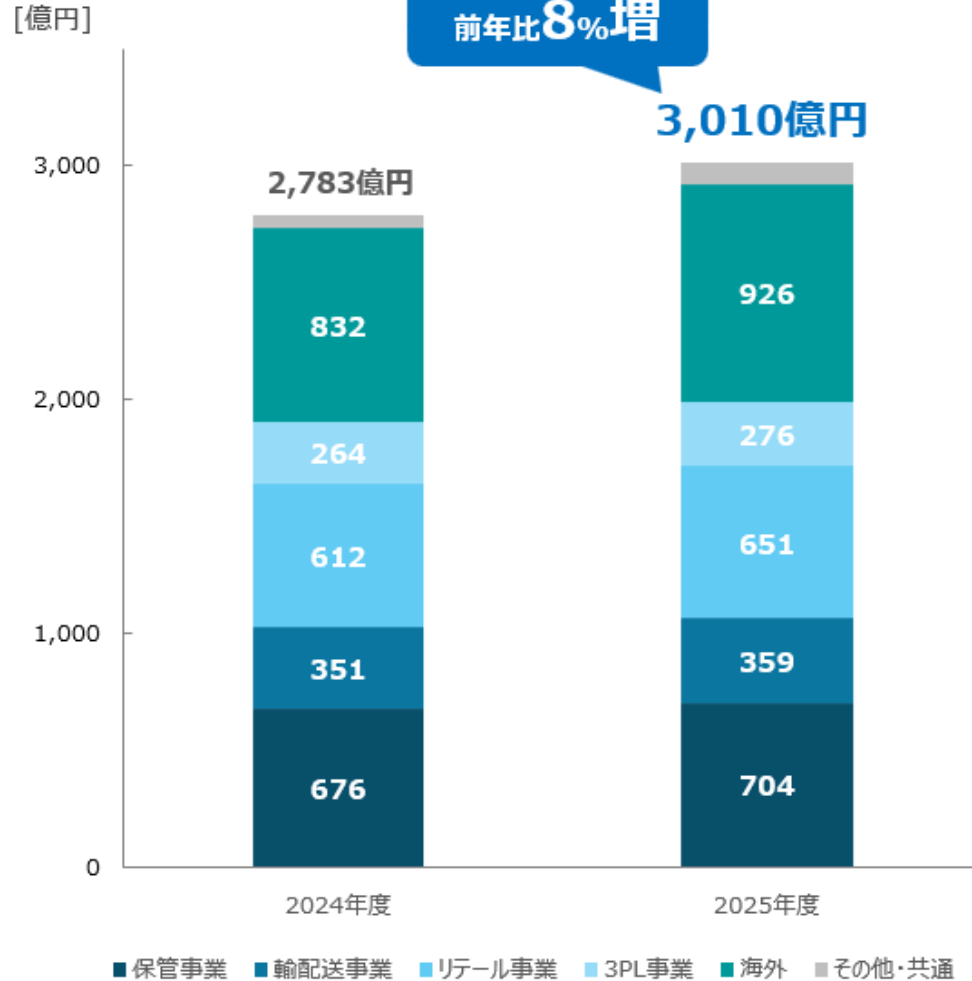
2. 2026年3月期 決算概要

[ハイライト]

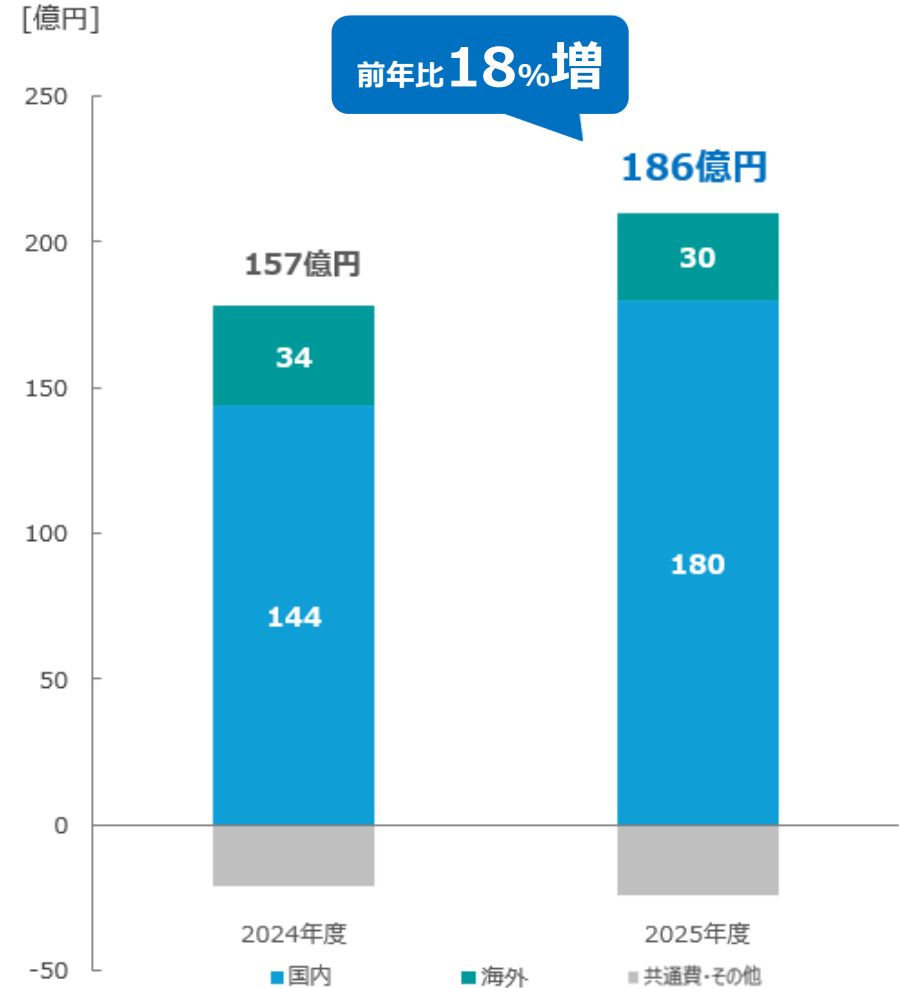
連結	ロジグループ総合で増収・増益。売上高は3,000億円を達成			
	売上高	: 3,010億円	前年比 8%増	
	営業利益	: 186億円	前年比 18%増	
国内事業	各セグメントでの事業拡大に加え、償却方法の変更影響により増収・増益を達成			
	売上高	: 1,990億円	前年比 5%増	
	営業利益	: 180億円	前年比 25%増	
	保管事業	売上高	: 704億円	前年比 4%増
	輸配送事業	売上高	: 359億円	前年比 2%増
	リテール事業	売上高	: 651億円	前年比 6%増
	3PL事業	売上高	: 276億円	前年比 5%増
海外事業	欧州・アジア共に、事業拡大や新規投資の効果で増収となるも、M&A関連費用の計上や、新增設拠点の稼働影響で減益			
	売上高	: 926億円	前年比 11%増	
	営業利益	: 30億円	前年比 10%減	

[連結業績]

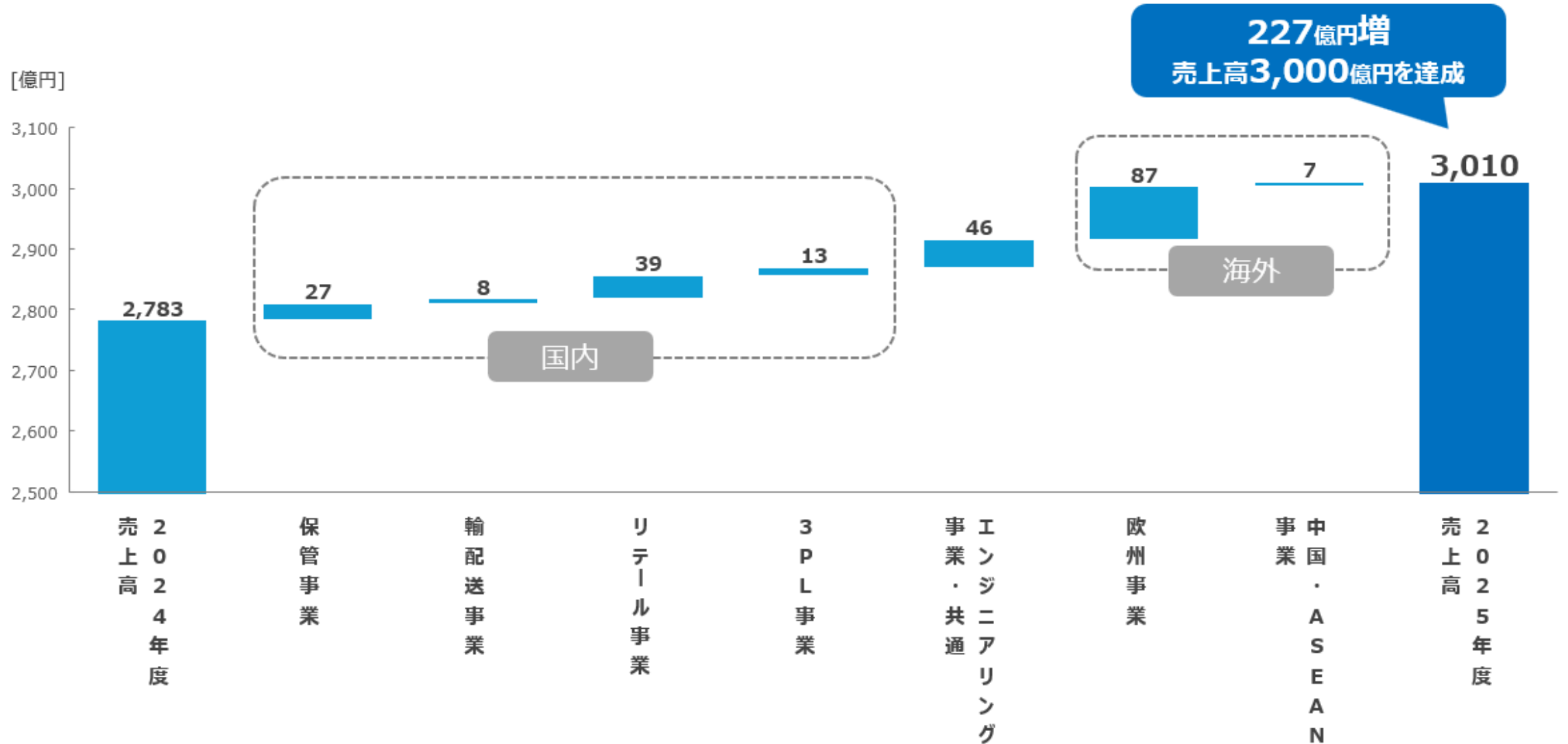
売上高推移



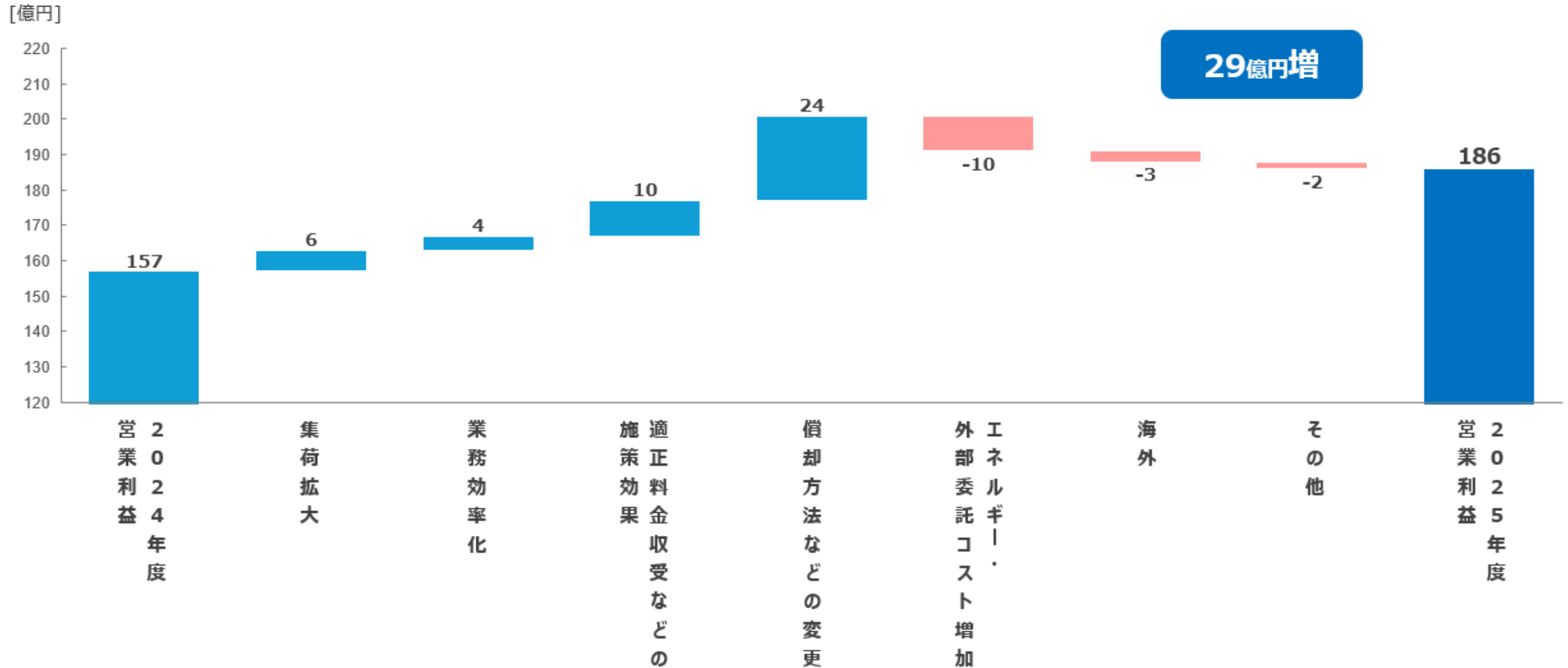
営業利益推移



[連結：売上高の増減要因]

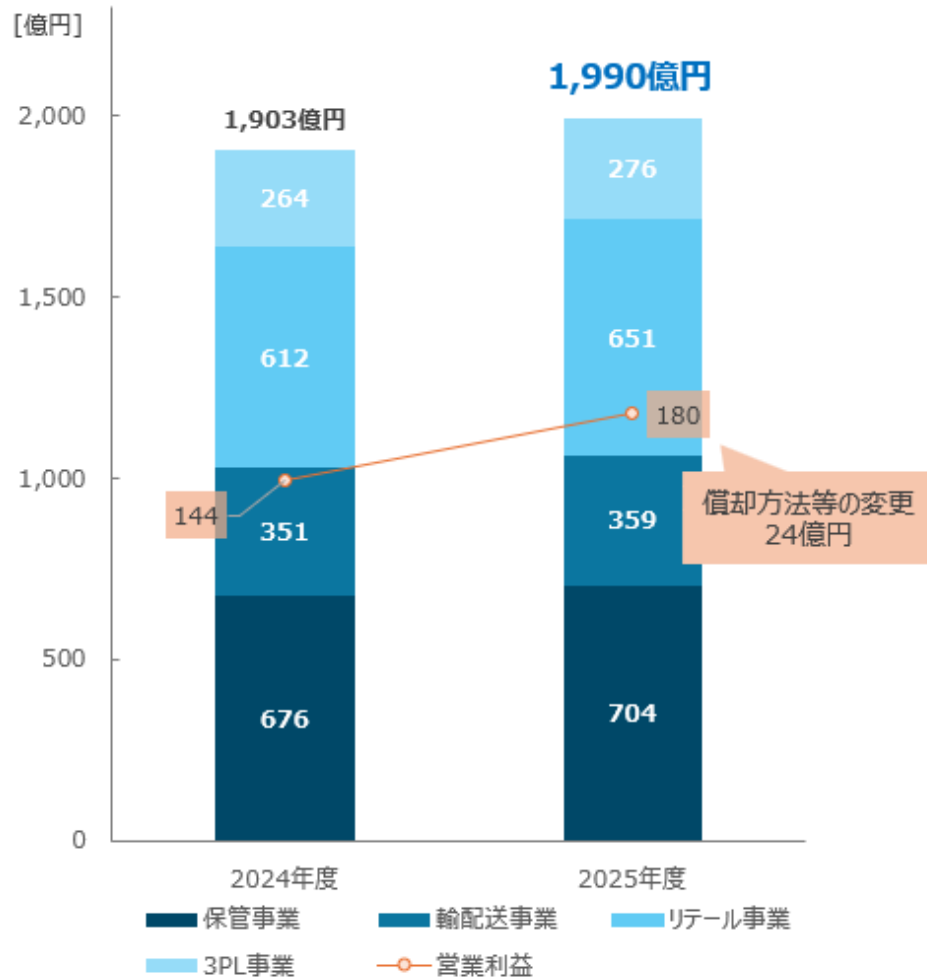


[連結：営業利益の増減要因]



[国内事業]

売上高・営業利益推移



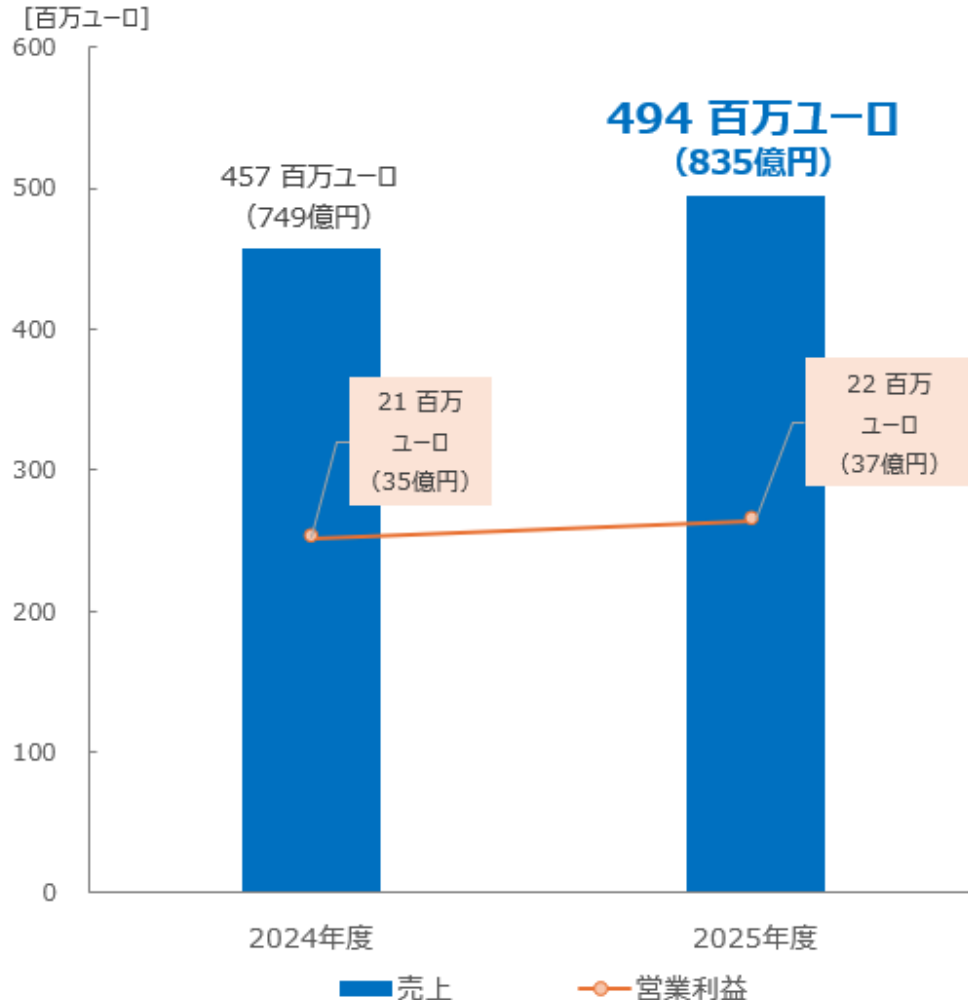
トピックス

各事業セグメントの事業伸長により、償却方法等の変更を除いた実力ベースでも増収増益

- 保管事業
 - ・ 各地域での保管需要の着実な取り込み、神戸六甲DCの稼働率向上
- 輸配送事業
 - ・ 共同配送の増加、「SULS」幹線輸送の伸長
- リテール事業
 - ・ 配送店舗数増加、「NL+LiNK」の拡大
- 3PL事業
 - ・ 冷食プラットフォームの取り組みが堅調拡大

[欧州事業]

売上高・営業利益推移



トピックス

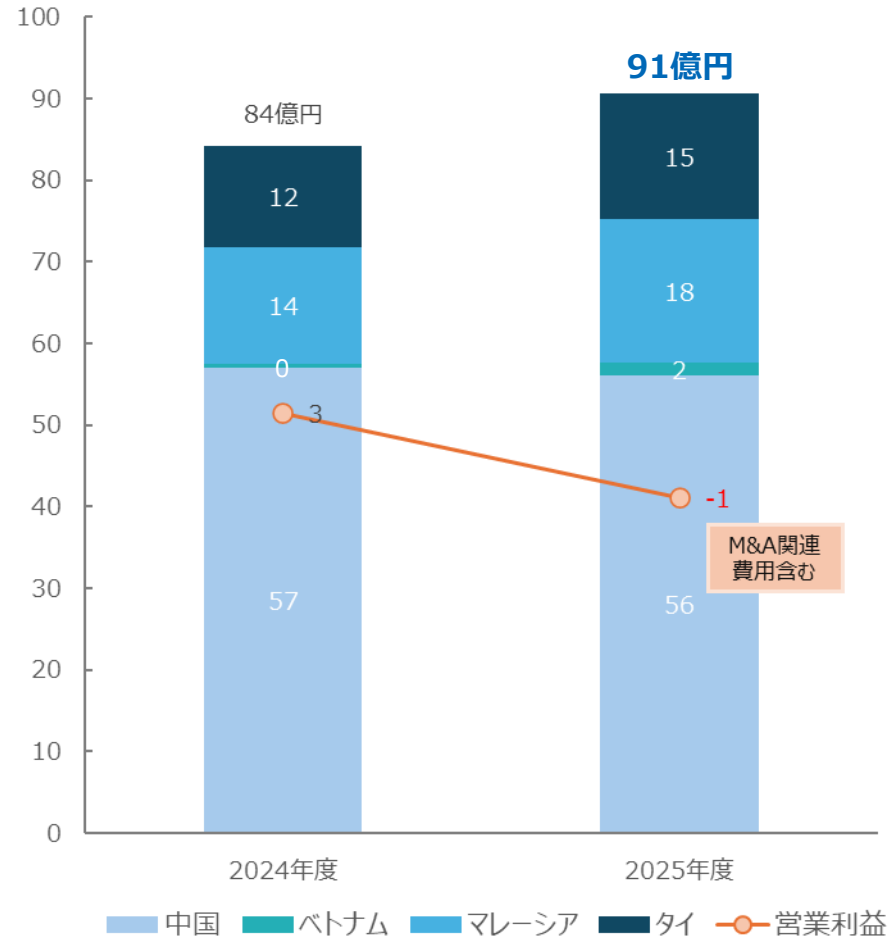
保管・輸配送事業の拡充や新增設拠点の稼働、およびCSRD対応費用の軽減により増収増益を達成

- 保管事業
 - 港湾3PL（通関、保管、輸配送、海上輸送）の拡大
 - 英国倉庫での付加価値サービス提供の拡大
 - ポーランドの新增設効果による事業規模の拡大。稼働遅れによる減益影響があったが、欧州総合では既存事業の伸長でカバー
- 輸配送・フォワーディング事業
 - 欧州の広域輸配送事業の拡大
 - 2024年度に買収した英国フォワーディング会社の通年効果およびシナジーの発揮

[アジア事業]

売上高・営業利益推移

単位：億円



トピックス

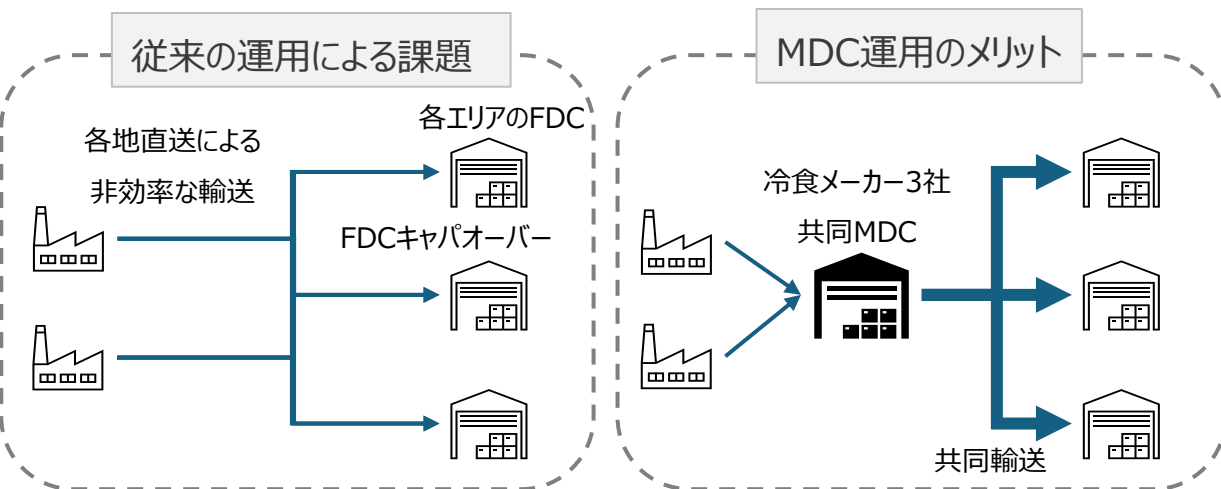
タイ、ベトナムの新增設拠点の稼働、マレーシアでの連結化などで売上伸長したが、M&A関連費用の計上や新設稼働時の立上費用の影響などで減益

- タイ
 - ・ 2025年3月に稼働した、ナワナコン新設拠点の稼働により事業が拡大
- マレーシア
 - ・ 連結化による効果や、輸配送事業の拡大で増収
- ベトナム
 - ・ 新設倉庫の集荷が順調に進捗し、売上伸長
- 中国
 - ・ 中国国内の消費動向により、前年並みの売上

- 冷凍食品物流の効率化と高度化に向けた取り組みを進展
- 低温物流業界の発展と持続性向上に向けたR&Dセンターの本格稼働

冷食物流プラットフォーム（MDC運用）の拡大

- ・2025年度に大手冷食メーカーの関東MDC（基幹保管拠点）業務を新規受託。2026年度1Qより開始予定（2社⇒3社体制へ）



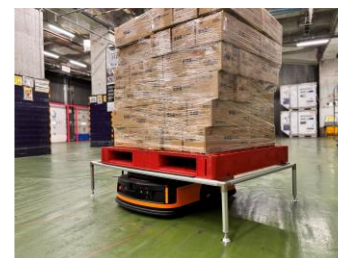
大都市圏におけるMDC運用の拡大を通じた冷食物流プラットフォームを強化していく

共同MDC・共同輸送により在庫最適化と輸配送効率の向上を図る

R&Dセンター 本格稼働

- ・チルド帯、冷凍帯における自動化機器の動作検証
- ・ロボティクス機器の連動の実現に向けた実証実験

パレット搬送AGV



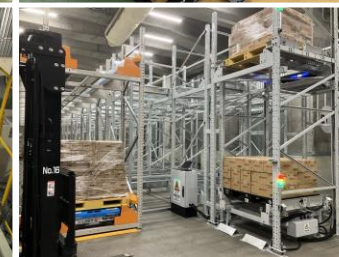
冷凍AMR



アームロボットとAGVの連動



平行水平シャトル (左)



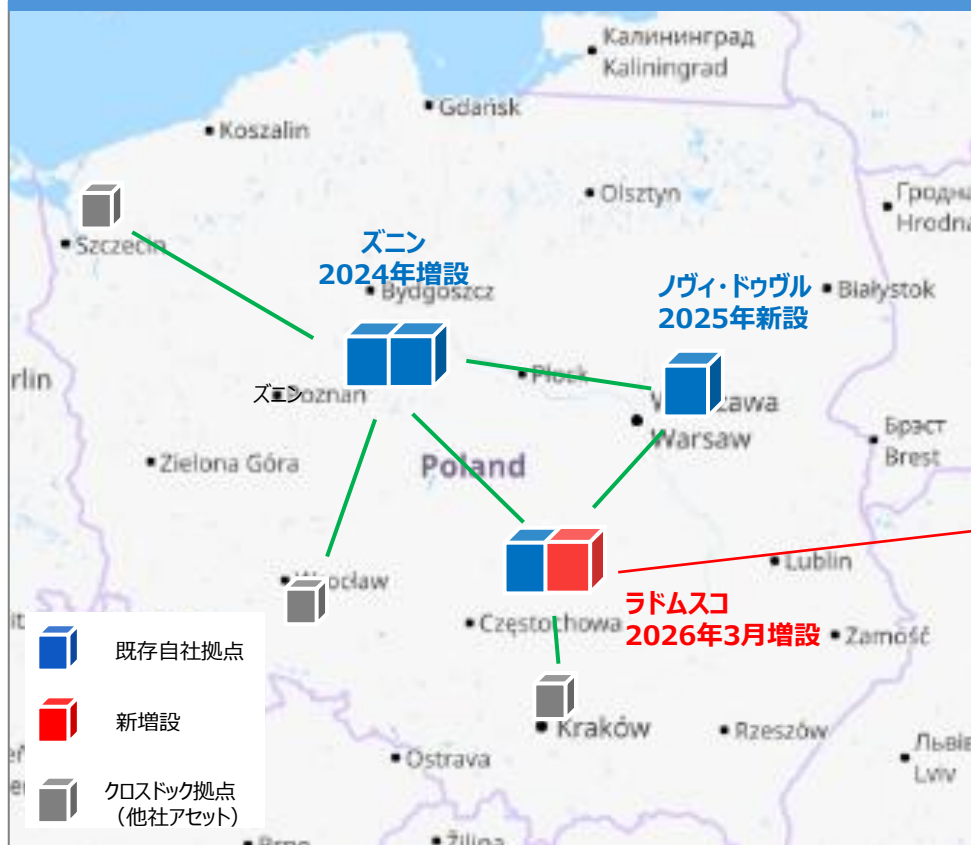
3Dパレットシャトル (右)

一連の作業フローにおける人と機械のベストミックスに向けた検証

【2025年度トピック】ポーランド事業基盤強化

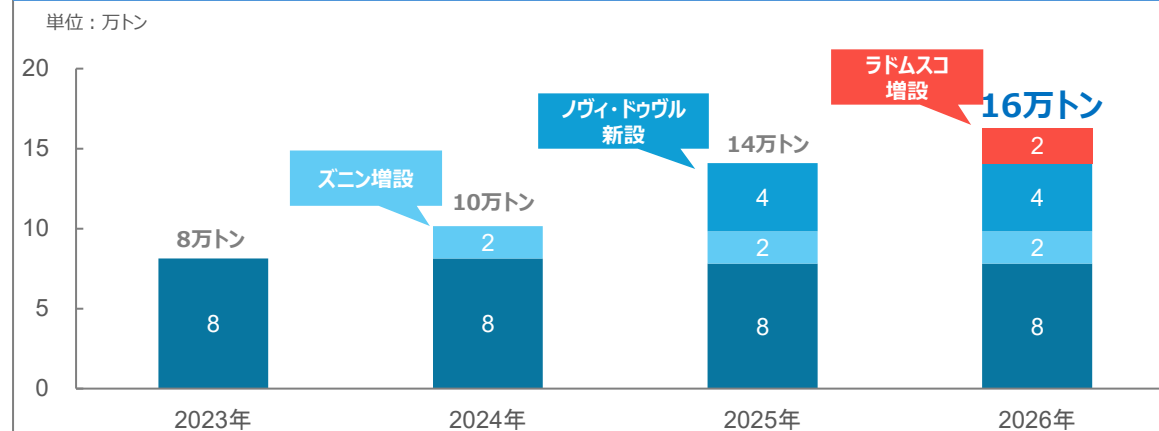
- ラドムスコ倉庫の増設により、ポーランドの保管・ネットワーク基盤を更に強化
- ポーランドの庫腹能力は2023年比で2倍に伸長

自社倉庫、他社アセットを活用したネットワークを構築



© OpenStreetMap contributors

ポーランド自社庫腹の拡大



ラドムスコ増設



- 2026年3月稼働
- 22,108トン（移動ラック）
- メーカー保管需要の取り込み
- リテール配送事業の基盤強化

【2025年度トピック】 マレーシアICCLグループをM&A

- マレーシア北部の保管拠点と配送網を活用したマレーシア事業全体の強化を図る
- クロスボーダー輸送機能を活用したASEAN域内におけるシナジーの創出を目指す

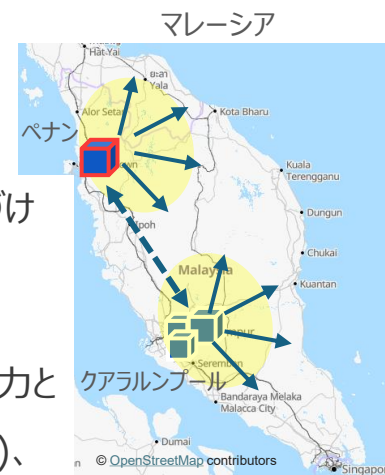
※1 当社調べ

ICCLグループの企業概要

- 2026年2月 買収完了
- マレーシア北部を地盤として低温物流事業を展開
- 国内第3位※1の設備能力に加え、クロスボーダー輸送機能を提供

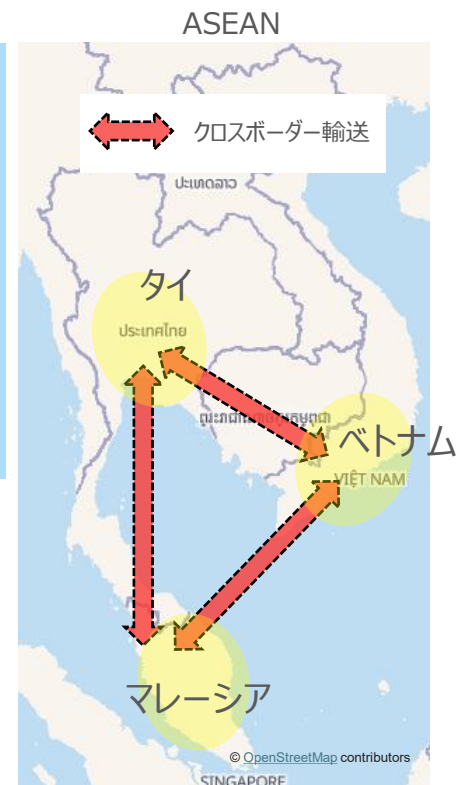
M&Aの経緯

- 中期経営計画におけるASEAN事業拡大に向けたM&Aと新たな機能拡大への投資の位置づけ



- 既存マレーシア事業の低温設備能力と合算し約54,000PL(約13万トン)、国内第2位※1となり、保管・輸配送基盤をさらに強化

- タイ、マレーシア、ベトナム事業間を結ぶASEAN域内におけるクロスボーダー輸送機能による顧客提供価値のさらなる向上を目指す



法人名称

- Integrated Cold Chain Logistics Sdn. Bhd.
- Kris Bayu Sdn. Bhd.
- ICCL Distribution Sdn. Bhd.

設立年

2006年

所在地

ペナン州

事業内容

冷蔵倉庫
輸配送
フォワーディング

連結売上高

約17.7億円
(2024年12月期)

設備能力

約22,000PL
(約5.7万トン)



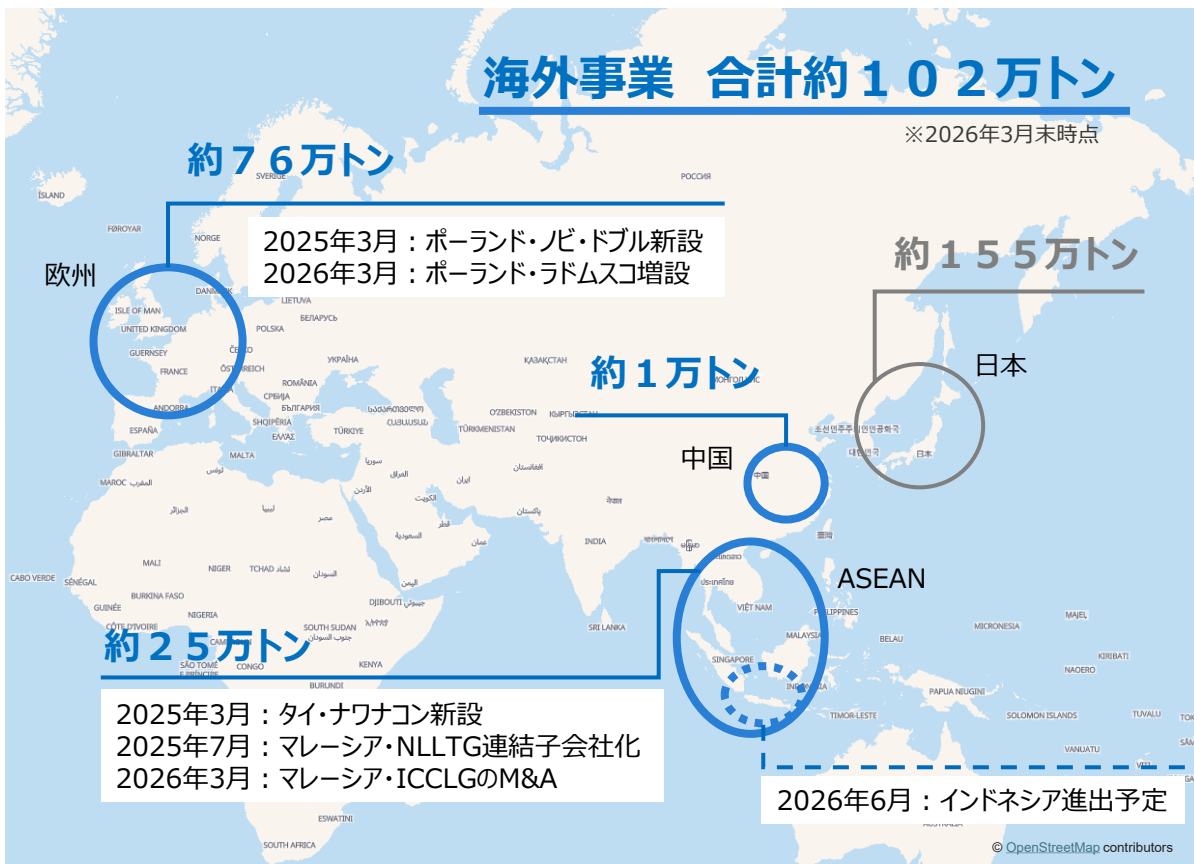
【2025年度トピック】海外設備能力の拡大とグローバル連携の強化

- 海外事業における低温設備能力が100万トンを突破
- 海外事業のエリア間連携に向けたグローバル会議を初開催

エリア別低温設備能力

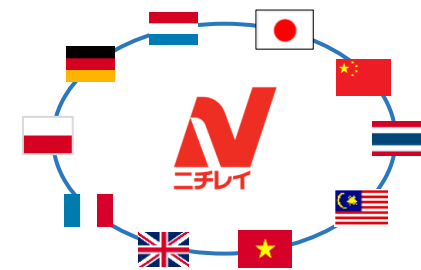
海外事業 合計約102万トン

※2026年3月末時点



海外各社経営層とのグローバル会議開催

- 欧州、中国、ASEANの全海外子会社の経営層が参加
- ニチレイ、ニチレイフーズ、ニチレイロジグループ各社の戦略共有
- 各エリアにおける事業状況の共有とシナジー創出に向けたディスカッションを実施



エリアやグループを横断した事業連携に向けた取り組みの本格始動

1. 企業概要

2. 2026年3月期 決算概要

3. 中期経営計画

①進捗状況

②2026年度重点施策

4. 参考資料

3. ①中期経営計画（2025-2027）進捗状況

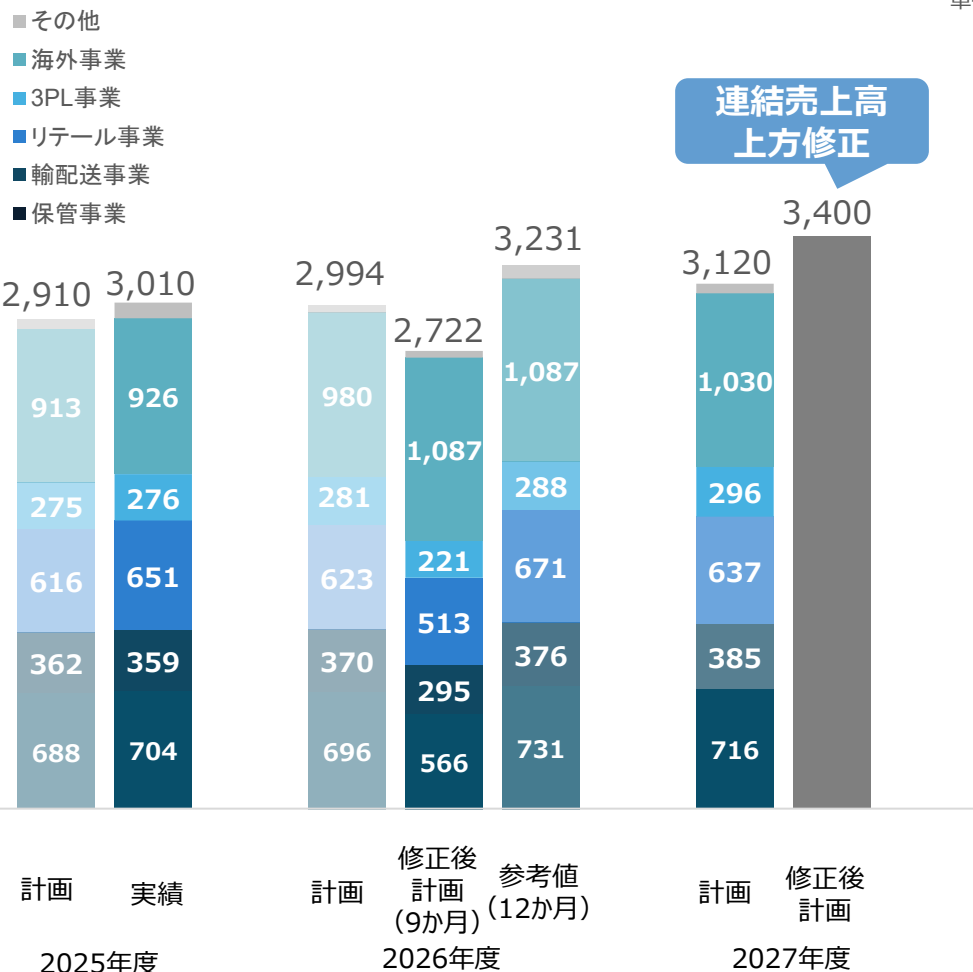
注) 修正後計画（9か月）・・・国内9か月、海外12か月
 参考値（12か月）・・・国内12か月、海外12か月

[業績進捗]

売上高

国内各セグメントの着実な伸長および
 海外M&A・新增設などにより拡大

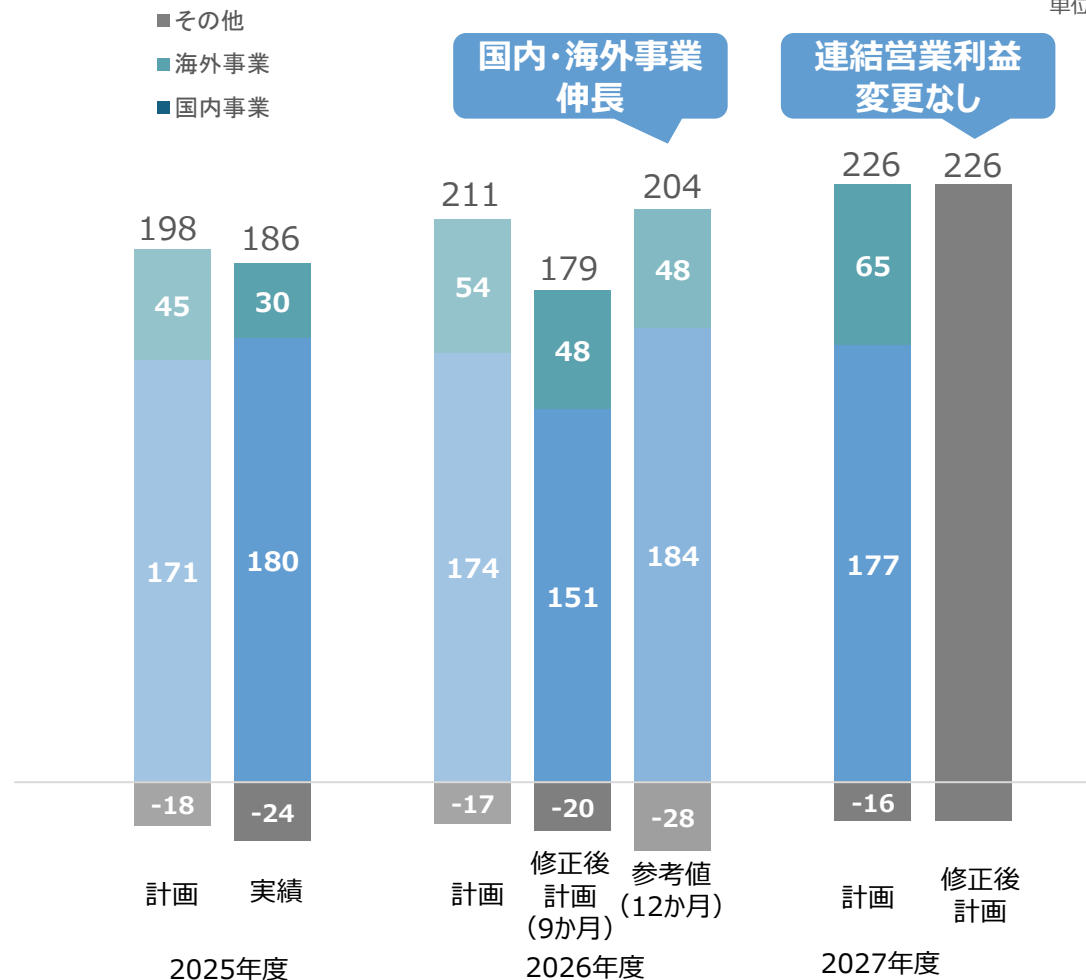
単位：億円



営業利益

国内各セグメントの売上伸長および
 海外投資効果の発揮などにより前年増益を図る

単位：億円



3. ②2026年4月1日～ ニチレイグループ新企業経営理念

グループ共通のミッション、ビジョン、バリューズを軸に、同じ未来を目指しています。そのうえで、事業会社はそれぞれの事業特性や役割に応じた独自のビジョンとバリューズを持ち、グループ全体の価値創造を支えています。

	ニチレイグループ	ニチレイフーズ	ニチレイロジグループ
Mission ミッション 使命・存在意義	食からひろがる幸せを、ニチレイが未来へつなぐ		
	食と人と地球の架け橋になる、価値創造カンパニー		
Vision ビジョン/ ありたい姿	冷やす力を活かした食のバリューチェーンで、新たな価値を生み出し、人と地球がともによろこぶ食の未来をつないでいきます。	冷凍の力で暮らしに笑顔と感動を届けます 地球の食資源を守り育てながら、素材を見極める目、おいしさを生み出す独自技術で、新たな食のあり方を創発し、社会から最も信頼される存在になります。	挑み続け、低温物流を熱く動かす コールドチェーンで培ってきたノウハウと専門性、ネットワークを活用した先進的で最適なソリューションを提供します。時代の変化に対応しながら、社会にとってかけがえのないパートナーであり続けます。
Values バリューズ/ 価値観	誠実に向き合う 質を追求する	〈ニチレイズム〉 期待を超えて挑む 力を合わせ共創する	人を大切にする
		“ハミダス”(つぎの一步へ) もっと、チャレンジして もっと、思いやりをもって もっと、楽しく	あらゆるシーンで“利用体験価値”を高めることを追求します。そして、仲間や関わるすべての人が、満足と誇りを分かち合える未来を、ともに築いていきます。

ニチレイロジグループのブランドスローガン

ニチレイロジグループの事業姿勢を、これまでも、これからも表していくブランドスローガンです。

選ばれつつける仕事。

3. ②ニチレイロジグループ新企業経営理念コンセプトムービー



3. ②全国規模での保管・輸配送能力の拡大

- 自社アセット投資と他社アセット活用を通じた保管能力および集荷の拡大
- 冷食需要の拡大に応じた「SULS」幹線と支線の強化

保管能力の拡大

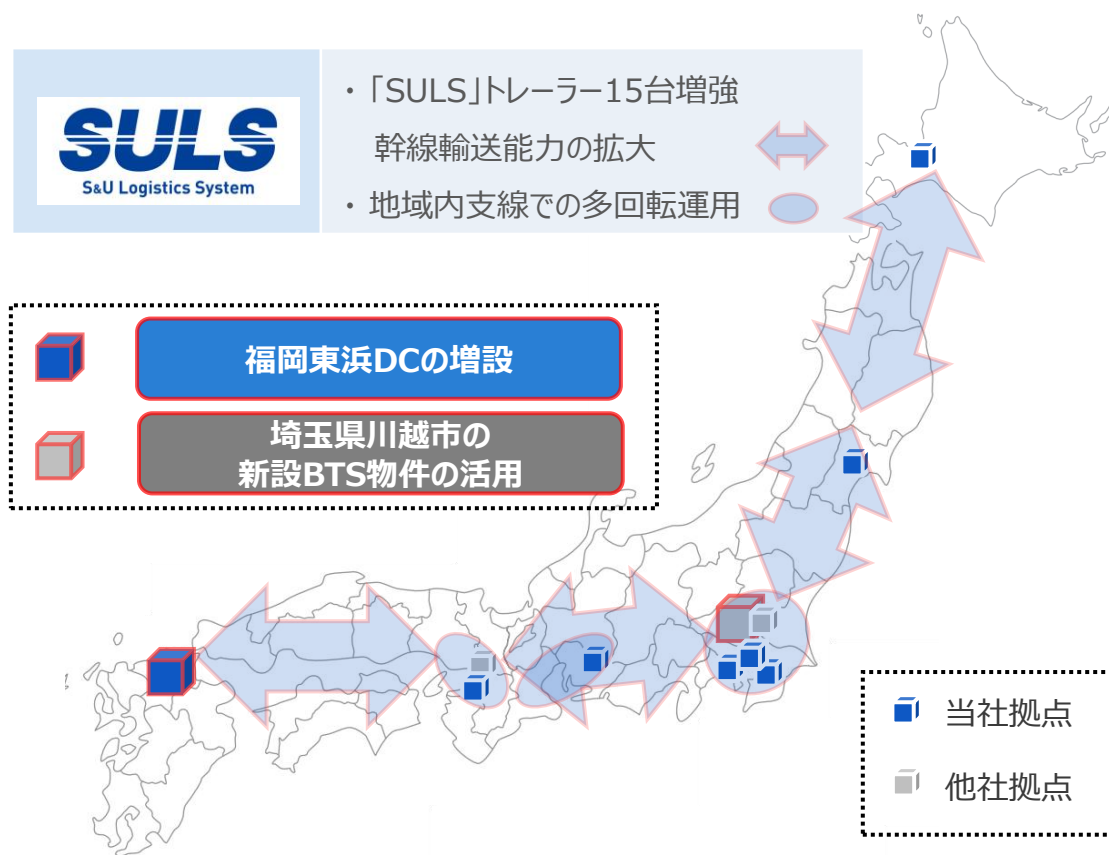
九州エリア：自社アセット増設

稼働予定	2027年11月予定 (2026年1月着工)
設備能力	約28,000トン
特徴	<ul style="list-style-type: none"> グループシナジーを活かした拠点機能強化 九州エリアの需要増加と輸配送効率化に対応

関東エリア：他社アセット活用

稼働予定	2027年12月予定 (2026年4月着工)
設備能力	約21,600トン
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 首都圏冷食需要の拡大に対応する基幹拠点の1つ 既存MDCとの掛け合わせによる冷食物流PFを展開

輸配送基盤の強化



他社アセット活用によるさらなる集荷の拡大

活用強化	<ul style="list-style-type: none"> 集荷・輸配送機能強化 石狩、盛岡エリア 庫腹運用強化 名古屋エリア

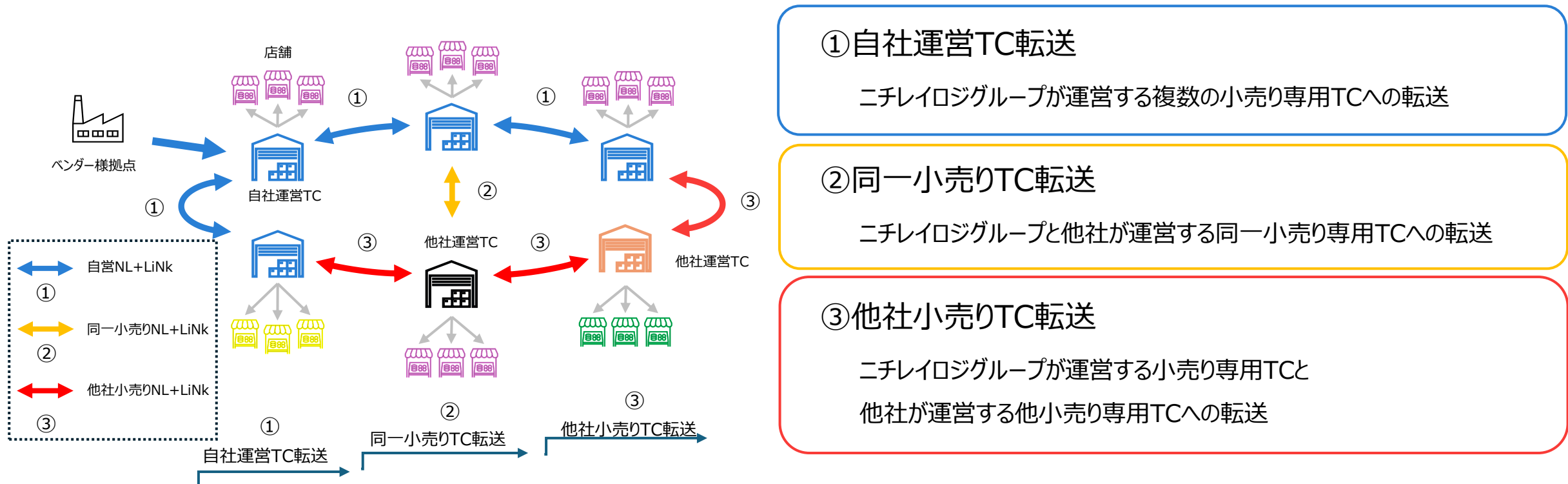
新規活用検討	<ul style="list-style-type: none"> 協力パートナー物件 岡山エリア 新たな拠点構想 大阪エリア

3. ②小売りベンダー様向けリテール物流網の整備

- 複数小売り・複数TC運営を活かした輸送網の構築
- 自社運営外TCとの連携による輸送網の拡充



複数小売り・複数TC運営を活かした輸送網の構築 と 自社運営外TCとの連携による輸送網の拡充



- ① 自社運営TC転送
ニチレイロジグループが運営する複数の小売り専用TCへの転送
- ② 同一小売りTC転送
ニチレイロジグループと他社が運営する同一小売り専用TCへの転送
- ③ 他社小売りTC転送
ニチレイロジグループが運営する小売り専用TCと他社が運営する他小売り専用TCへの転送

協業ネットワークの構築による柔軟かつ強靱な物流網の整備

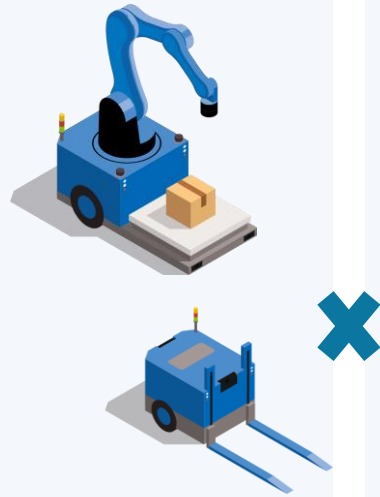
3. ②データドリブン運営の実現に向けた技術検証の加速とデジタル化率向上

- R&Dセンターでの検証を通じた実拠点への展開加速
- デジタル化による現場変革とアナリスト人財によるデータ活用高度化

R&D × デジタル化 による現場変革の加速

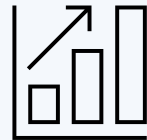
R&Dセンターでの共創を強化

- ・ パートナー企業と協働し、低温環境下の先端技術検証を高速化
- ・ 新たな物流システムの共同研究



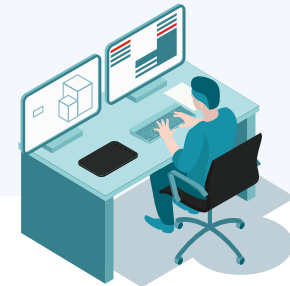
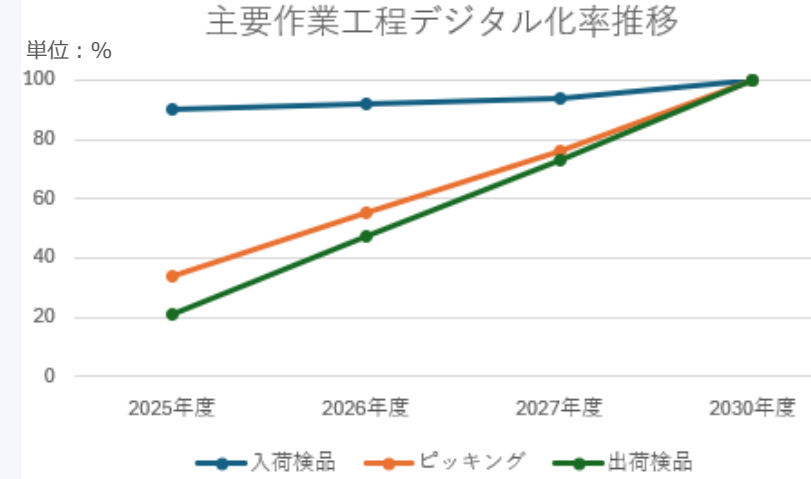
実拠点への展開を加速

- ・ 検証結果を迅速に現場へ反映
- ・ R&Dセンターで検証した業務フローを現場展開することで業務効率化を促進



現場データの可視化と高度活用

- ・ 主要作業工程のデジタル化率を向上（入荷検品・ピッキング・出荷検品）
- ・ デジタル未対応工程を含め、作業実態をデータで把握
- ・ データ基盤の環境を構築し、モデル拠点でアナリスト人財がデータを基に分析・評価・改善提案・実行のサイクルを推進



研究・現場・人財をつなぎ、持続的な現場改善を実現

3. ②海外事業における事業拡大・新增設（欧州全体）

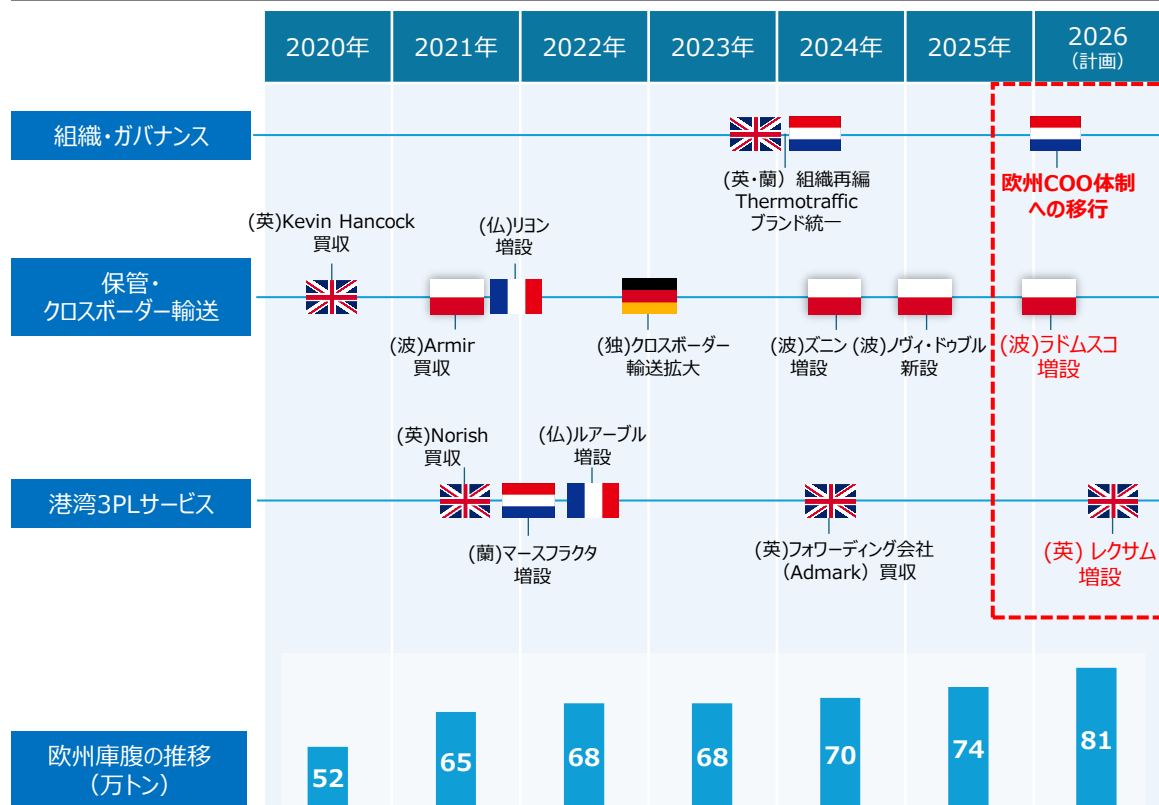
[欧州現地COO体制移行による、拠点の高度活用とグループシナジーの発揮]

- 現地COO体制の下で、港湾3PL・保管・輸配送のグループ連携を強化
- ポーランド新增設拠点（ノビドブル新設、ラドムスコ増設）の集荷拡大
- 英国レクサム増設による拠点機能強化

欧州拠点



欧州事業の拡大推移

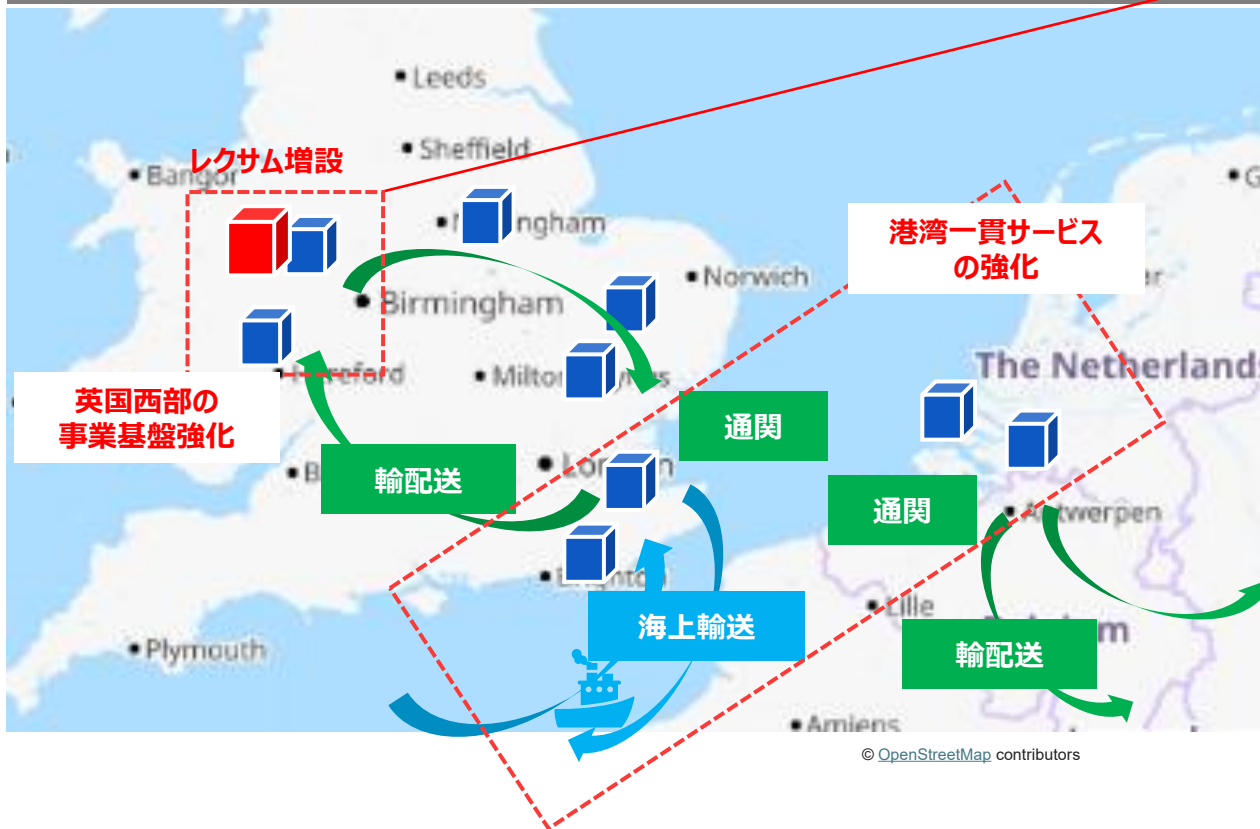


シナジーの最大化・横断的な事業戦略の加速

3. ②海外事業における事業拡大・新增設（英国）

- 英国レクサム倉庫の増設で、欧州港湾一貫サービスを更に強化
- 英国国内での保管・輸配送ネットワークの事業基盤を拡充

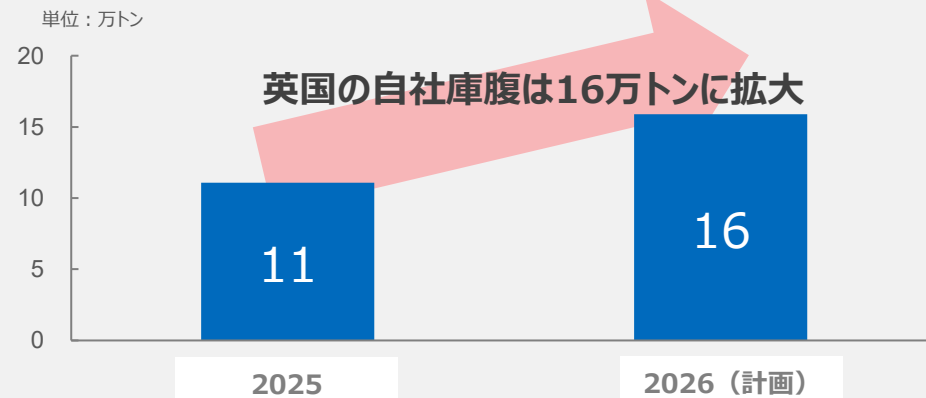
欧州港湾での一貫サービス拡充



レクサム倉庫の増設（建設中）



- 2026年内稼働予定
- 48,000トン規模
- 3Dシャトル型の自動庫による高い生産性
- 輸入貨物や冷凍食品の保管需要の取り込み
- 畜肉などの急速凍結サービスを拡充



3. ②海外事業における事業拡大・新增設（ASEAN）

[インドネシア進出およびASEANにおけるグループ連携の発揮]

- インドネシアMEGA社買収による、ASEAN事業基盤の拡大
- マレーシアICCL社とASEANでのグループ機能を活用した、クロスボーダー輸送・3PLの構築

ASEANでの事業基盤は4か国に拡大



拠点別の重点施策

マレーシア	ASEANフォワーディング事業の本格開始 <ul style="list-style-type: none"> マレーシア起点のクロスボーダー輸配送を展開
インドネシア	ASEAN最大の市場で事業基盤を拡大 <ul style="list-style-type: none"> 首都ジャカルタを中心とした、大消費地でのコールドチェーン需要を新たに取り込み
ASEANネットワークの構築	グループ機能を活かしたネットワーク構築 <ul style="list-style-type: none"> ICCLフォワーディング機能、およびグループ拠点を活用した、ASEAN域内でのクロスボーダーネットワークの構築 日本向け輸出フォワーディングの提供 欧州フォワーディング機能と連携した、国際3PLサービスの提供

3. ②インドネシア進出

- 高い経済成長率を維持するインドネシア、ASEAN 4ヶ国目となる進出
- ジャカルタ首都圏を中心とした事業展開

進出の背景

- ・ ASEAN域内で最大規模の人口
- ・ ジャカルタ首都圏への人口集中に伴う低温物流需要の拡大
- ・ 欧州、ASEANとの多様な交易機会

2025年	インドネシア	タイ	マレーシア	ベトナム
名目GDP (億米ドル)	14,433	5,585	4,706	4,847
人口 (百万人)	284.4	70.3	33.8	102.2
1人あたりGDP (米ドル)	5,074	7,942	13,900	4,745
実質GDP成長率 (%)※	4.9	2.0	4.5	6.5

出所：IMF世界経済展望(2023年10月版予測値)

※予測値

M&A対象企業の概要

商号	PT MEGA INTERNASIONAL SEJAHTERA (MIS)		PT MEGA INDO LOGISTIK (MIL)	
設立年	2011年		2016年	
所在地	チカラン (ブカシ県)			
事業内容 (2025年度)	冷蔵倉庫事業		輸配送事業	
売上高	約24億円		約13億円	
設備能力	約89,000PL (約16万トン)		国内第2位 ※当社調べ	
特徴	解凍室、ハラル認証		低温輸送トラック159台	
	倉庫、冷凍設備、車両の自社修理機能			

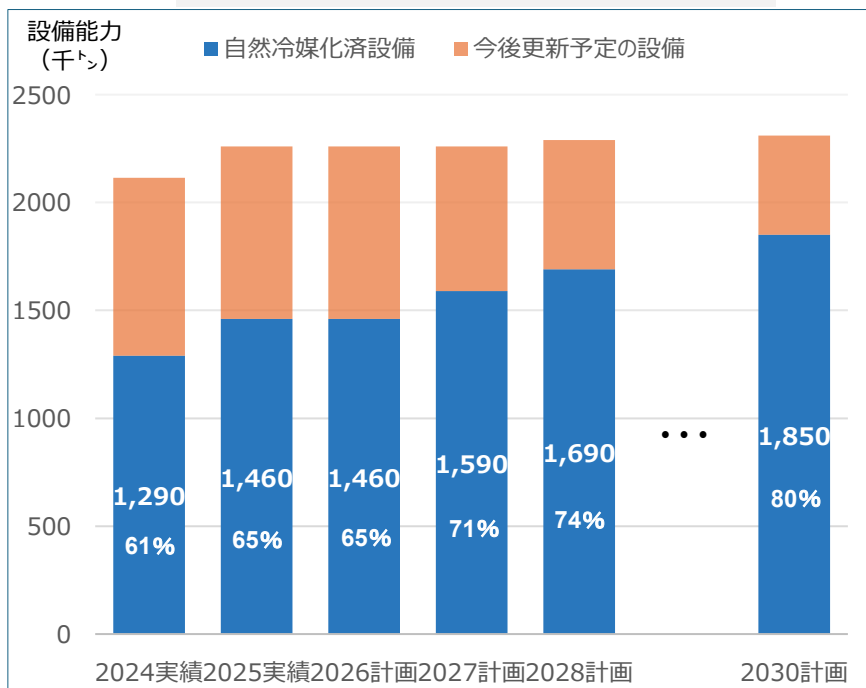


3. ②サステナビリティ経営の推進

➤ 環境負荷低減に向けた計画的な自然冷媒化および太陽光発電の拡大

自然冷媒化の推進

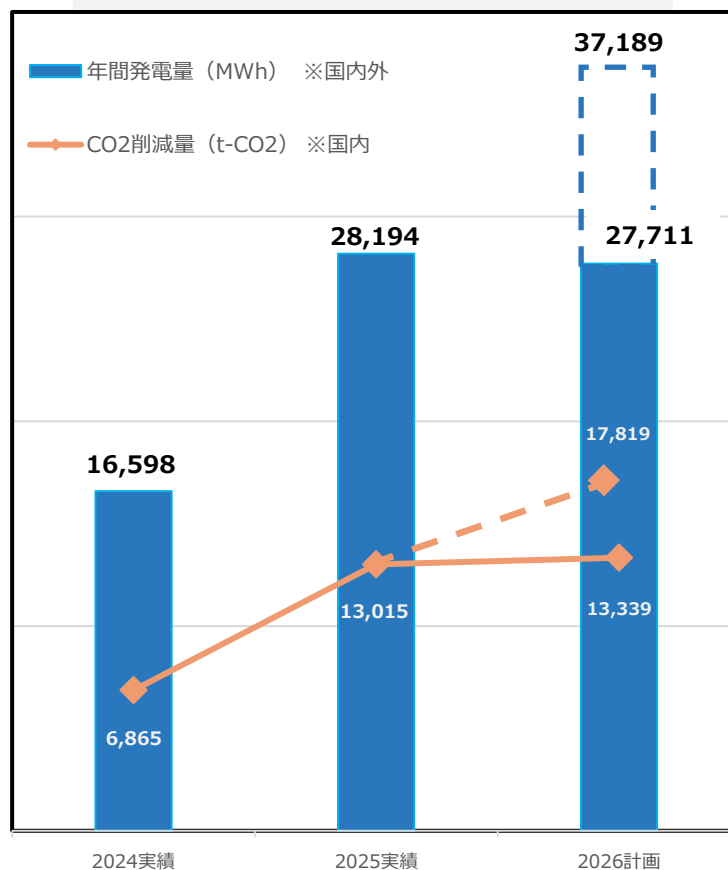
当社自社設備における自然冷媒化の推移
(海外拠点含む、賃借拠点除く)



(参考情報)
業界における
自然冷媒導入率52.1%

※決算時期変更に伴い、
2027年1-3月工事実施分は27年分に含む

年間発電量及びCO2削減量の推移



※オフサイトPPA由来の電力含む、点線部は27年1~3月含む数値

CO2排出量削減

太陽光導入拠点数拡大

	25年度末	26年度末
欧州	6拠点	8拠点/DC 20拠点中
ASEAN・中国	3拠点	3拠点/DC 17拠点中
国内	46拠点	53拠点/DC 74拠点中

※オフサイトPPAの供給を受けている拠点も含む

電力再エネ比率の向上

- 地熱発電を用いたオフサイトPPAを九州エリア拠点に4月より導入。九州エリアに限らず、太陽光発電以外の再エネ調達の拡大に向けた取り組みを検討
- ニチレイ・ロジスティクス東北では太陽光PPA導入に加え、4月より通常電力を再エネメニューに切り替えることで再エネ比率100%を実現

1. 企業概要

2. 2026年3月期 決算概要

3. 中期経営計画

①進捗状況

②2026年度重点施策

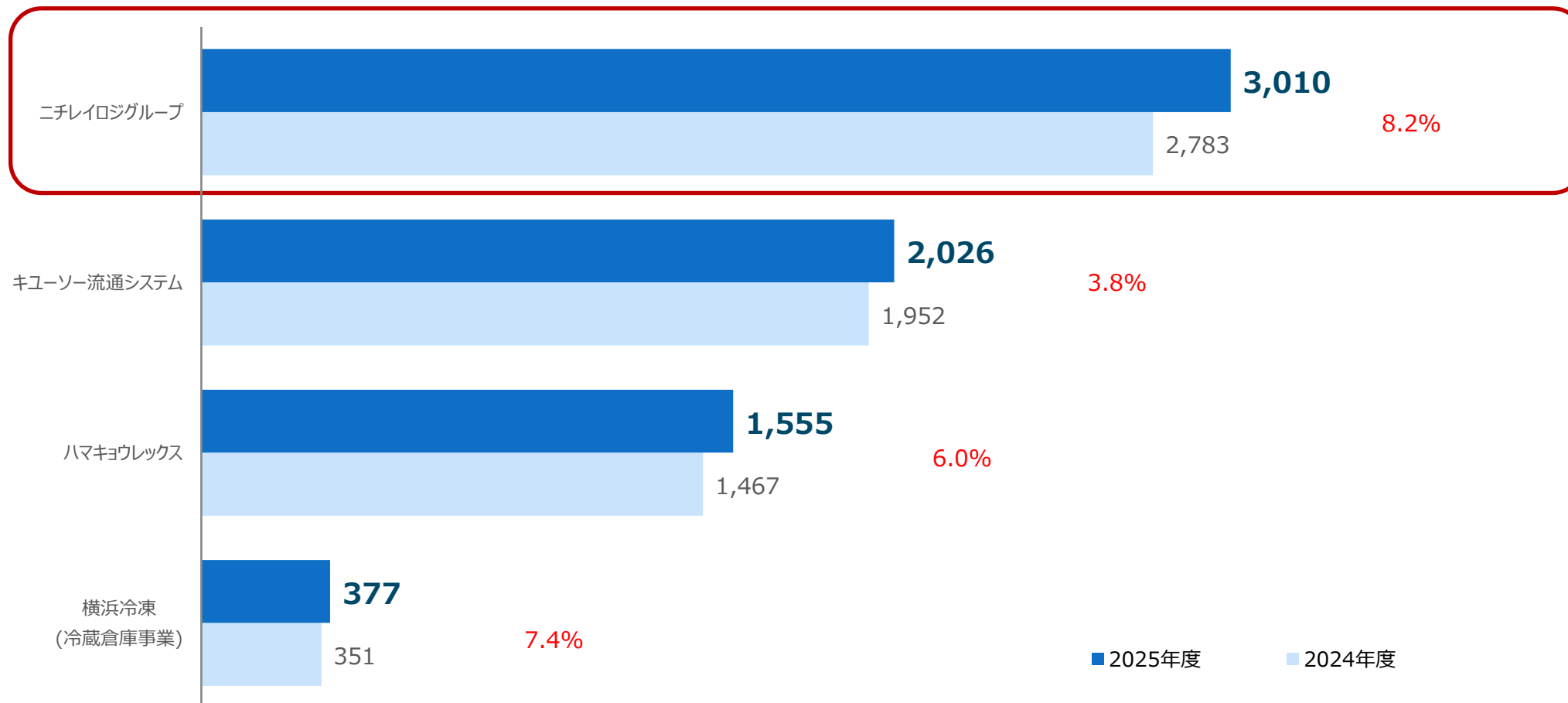
4. 参考資料

4. 参考資料

[ポジション①]

単位：億円

主要低温物流企業の売上高



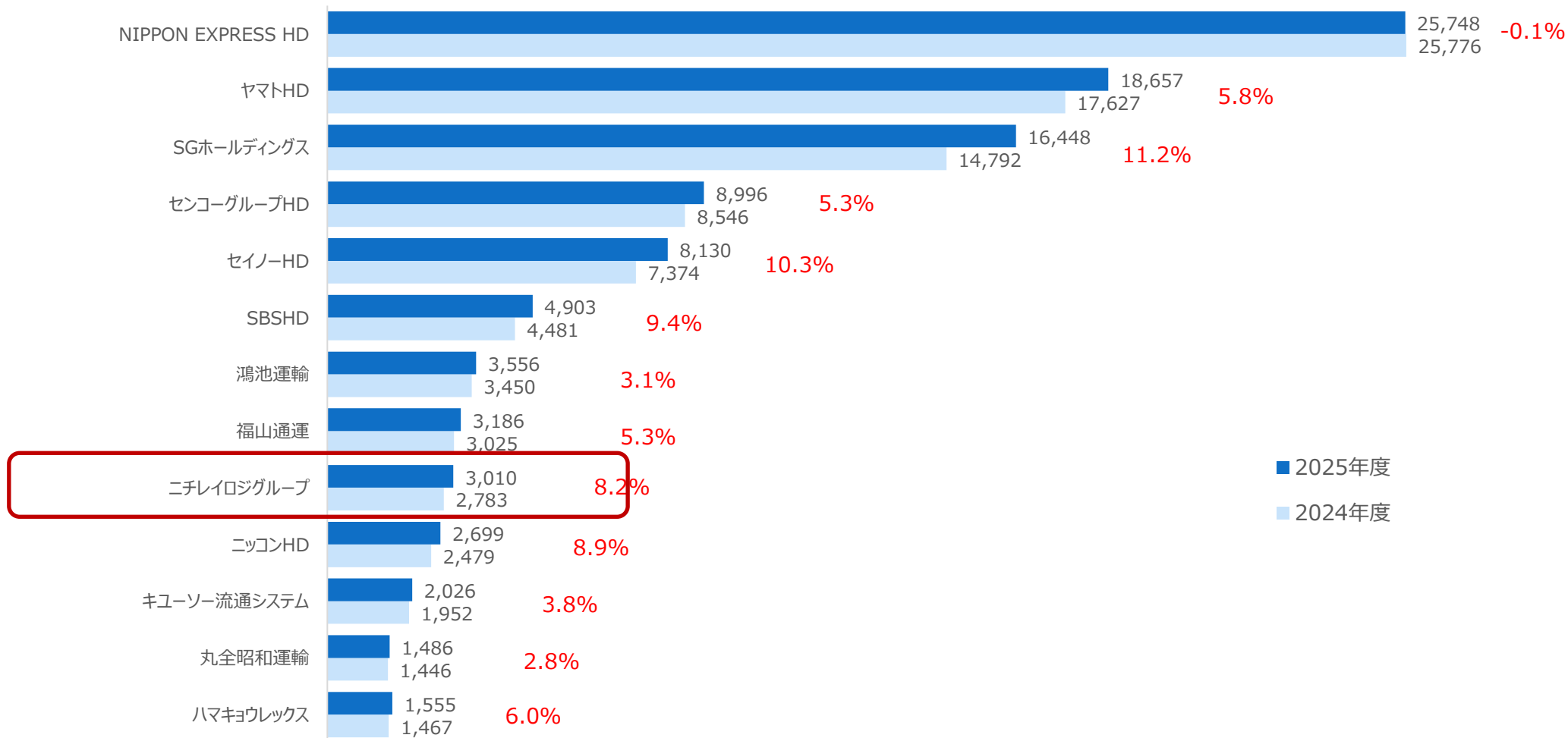
※低温物流を主とする物流会社を選定
※各社決算短信（2026年5月15日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。

4. 参考資料

[ポジション②]

主要物流企業（陸運）の売上高

単位：億円



※各社決算短信（2026年5月15日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。

4. 参考資料

[ポジション③]

冷蔵倉庫設備能力国内ランキング(推計)

順位	会社名	設備能力(ト)	全国シェア
1	ニチレイロジグループ	1,594,996	8.6%
2	ヨコレイグループ	1,037,726	5.6%
3	Umiosグループ	645,051	3.5%
4	名糖運輸(株)	637,084	3.4%
5	東洋水産グループ	580,404	3.1%
6	ニッスイグループ	449,326	2.4%
7	(株)松岡	362,716	2.0%
8	(株)ランテック	336,102	1.8%
9	(株)二葉	304,052	1.6%
10	鴻池運輸(株)	279,580	1.5%
11	(株)キューソー流通システム	277,414	1.5%
12	日本物流センター(株)	239,631	1.3%
13	五十嵐冷蔵(株)	235,510	1.3%
14	(株)ハウスイ	215,181	1.2%
15	第一倉庫冷蔵(株)	211,493	1.1%
16	(株)ムロオ	179,354	1.0%
17	(株)兵食	175,973	0.9%
18	藤林グループ	149,884	0.8%
19	山手冷蔵(株)	142,128	0.8%
20	福岡運輸(株)	140,151	0.8%

※出所：日本冷蔵倉庫協会「冷蔵倉庫の諸統計 2024年版」をもとに加工

冷蔵倉庫設備能力世界ランキング

No	Company	Capacity(m3)
1	Lineage	86,847,626
2	Americold Logistics	40,354,272
3	NewCold Coöperatief U.A.	14,652,777
4	United States Cold Storage, Inc.	12,631,922
5	Emergent Cold Latin America	7,385,563
6	Nichirei	6,465,149
7	Constellation Cold Logistics Sarl	6,399,487
8	FreezPak Logistics	4,459,220
9	Frialsa Frigorificos S.A. De C.V.	4,086,877
10	Interstate Warehousing, Inc.	3,992,855
11	SuperFrio IceStar	3,295,998
12	Cube Cold Europe	3,511,283
13	Vertical Cold Storage	2,870,510
14	Arcadia Cold Storage & Logistics	2,851,779
15	Conestoga Cold Storage	2,690,258
16	Magnavale Ltd	2,489,305
17	Agile Cold Storage LLC	2,210,124
18	Congebec Inc.	1,900,199
19	RealCold	1,837,320
20	Cold-Link Logistics	1,761,305

※出所：GCCA「Global Top25 List」2026年4月資料をもとに加工

4. 参考資料

[損益計算書（連結）]

単位：億円、端数四捨五入、（ ）内利益率

	前期		当期		前期比
売上高	2,783		3,010		8.2%
営業利益	157	(5.7%)	186	(6.2%)	18.0%
経常利益	152	(5.5%)	179	(6.0%)	17.6%
税引前利益	142	(5.1%)	174	(5.8%)	22.2%
当期純利益	92	(3.3%)	113	(3.8%)	22.6%

※利益率は1円単位で計算

4. 参考資料

[損益計算書 (セグメント別)]

(単位：百万円)

		前期	当期	前期比	増減率
売上高	国内	190,285	199,018	8,732	+4.6%
	保管	67,642	70,389	2,746	+4.1%
	輸配送	35,082	35,917	835	+2.4%
	リテール	61,210	65,076	3,866	+6.3%
	3PL	26,350	27,635	1,285	+4.9%
	海外	83,203	92,568	9,364	+11.3%
	その他・共通	4,783	9,405	4,621	+96.6%
	合計	278,273	300,991	22,718	+8.2%
営業利益	国内	14,395	17,955	3,560	+24.7%
	海外	3,368	3,042	▲ 325	▲ 9.7%
	その他・共通	▲ 2,013	▲ 2,414	▲ 401	-
	合計	15,749	18,583	2,833	+18.0%

4. 参考資料

[財務諸表分析]

		前期末	当期末
総資産	百万円	231,146	271,444
負債	百万円	109,900	136,987
うち, 有利子負債	百万円	62,229	81,141
うち, 有利子負債 (リース債務除く)	百万円	49,055	67,536
純資産	百万円	121,245	134,456
D/E比率	倍	0.5	0.6
D/E比率 (リース債務除く)	倍	0.4	0.5
自己資本比率	%	51.1%	47.7%
売上高	百万円	278,273	300,991
当期純利益	百万円	9,247	11,334
自己資本利益率 (ROE)	%	7.8%	8.8%
総資産利益率 (ROA)	%	4.0%	4.2%
総資産回転率	倍	1.2	1.1

注：D/E 比率の算出方法：有利子負債÷純資産（少数株主持分を除く）

[設備投資の状況]

〈設備投資等〉 (単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画
22,748	23,972	+1,224	30,000

〈減価償却費〉 (単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画
12,826	11,653	△1,172	11,102

(注) 次期計画につきましては、3月決算の会社は9か月間、12月決算の会社は12か月間を連結対象期間とした計画数値を記載していることから、当期比は算出しておりません。

〈主な設備投資〉 (単位：百万円)

完了年月	会社名	所在地	設備の内容	設備投資 総額	当期計上額	完成後の 増加能力
	事業所名				(既計上額)	
2025年 9月	SCG Nichirei Logistics Co.,Ltd	タイ パトゥムターニー県	物流センターの 新設	3,781	1,149 (3,781)	設備能力 35,100 t
2025年 11月	Frigo Logistics Sp.z o.o.	ポーランド ノヴィ・ドゥヴル市	物流センターの 増設	4,970	338 (4,970)	設備能力 42,552 t
2026年 3月	Frigo Logistics Sp.z o.o.	ポーランド ウッチ・ラドムスコ市	物流センターの 新設	2,053	1,970 (1,970)	設備能力 22,108 t

注1： 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

注2： 2025年9月完了のSCG Nichirei Logistics Co.,Ltd.の新設工事は2025年3月に稼働開始しております

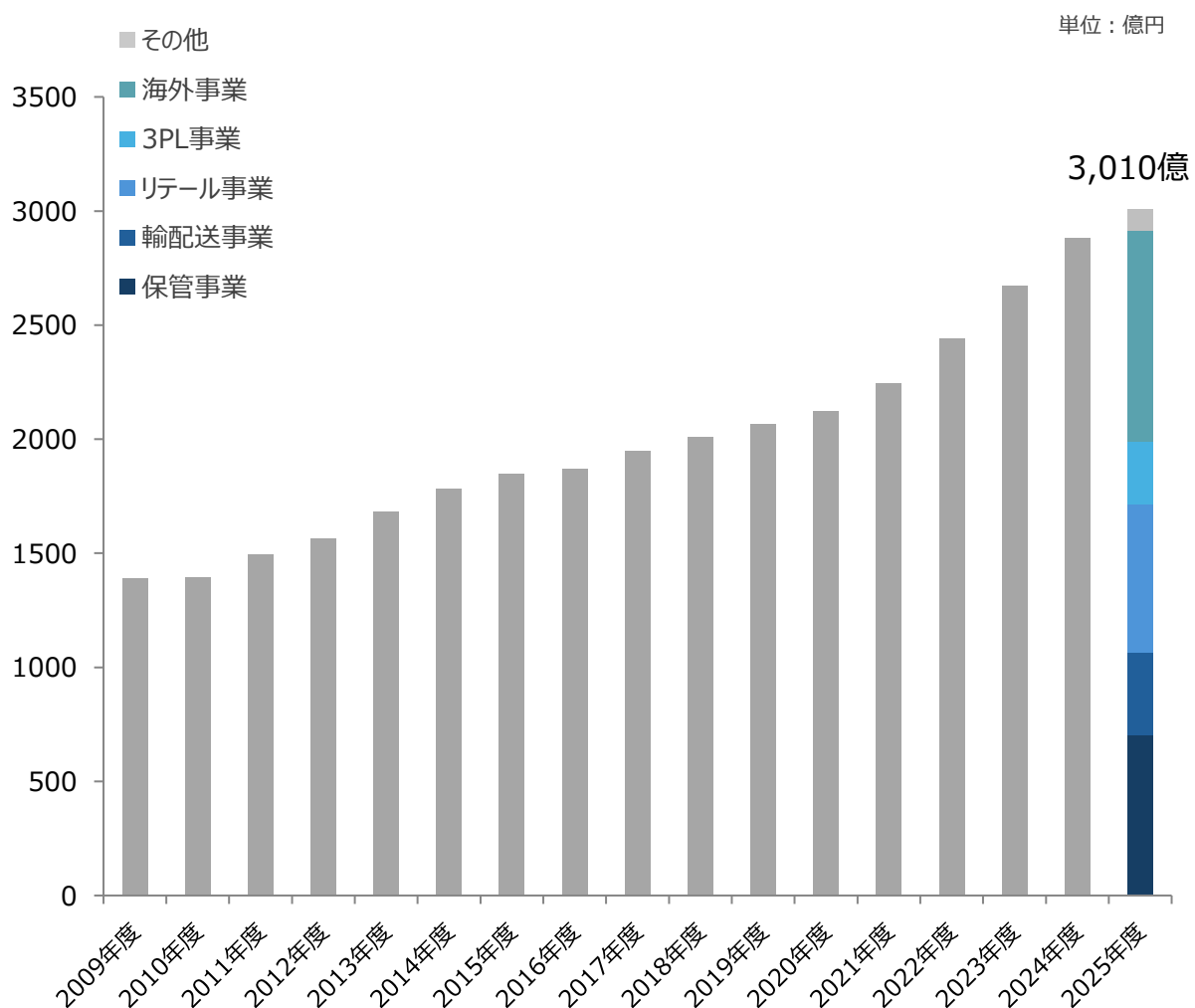
注3： 2025年11月完了のFrigo Logistics Sp. z o.o.の新設工事は2024年12月に稼働開始しております。

4. 参考資料

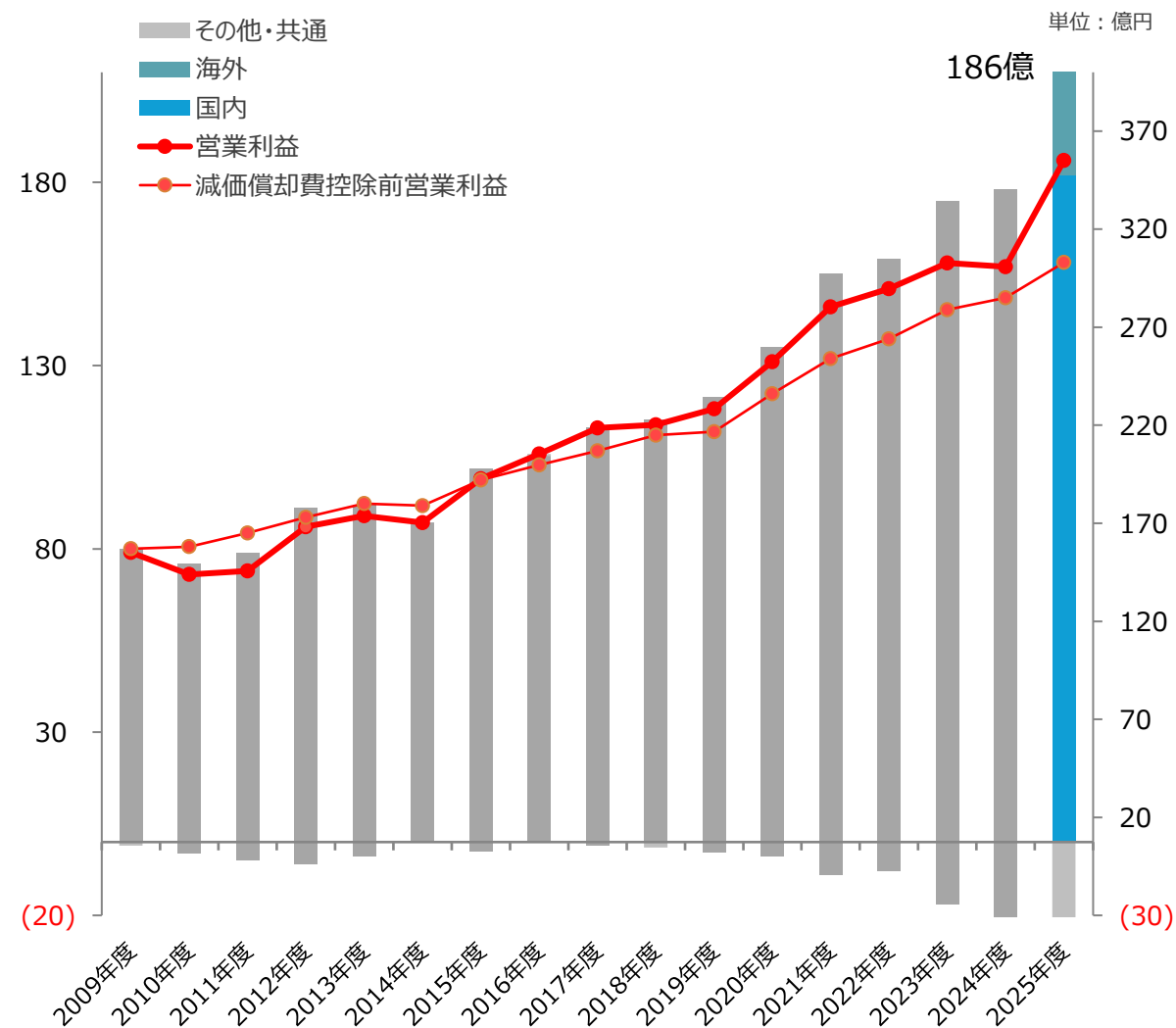
注) 2025年度より事業セグメント区分変更
2024年度以前の旧セグメント区分推移は過去資料を参照

[売上高・営業利益推移]

売上高推移



営業利益推移



この説明資料に記載されている当グループの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。

将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られた当グループ経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、経済情勢および業界環境、為替レート変動、品質保証体制確立の実現性、新サービスの実現性、成長戦略とローコスト構造の実現性、当グループと他社のアライアンス効果の実現性、偶発事象の結果、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響など、リスクや不確実な要素を含んでおりますので、業績見通しのみに全面的に依拠して判断されることは、お控えいただきますようお願いします。

【お問合せ先】

株式会社ニチレイロジグループ本社 経営企画部 広報室
N1040X003@nichirei.co.jp

株式会社ニチレイ 広報IR部 広報グループ
N1000X036@nichirei.co.jp

【参考リンク】

・株式会社ニチレイロジグループ本社 ホームページ
<https://www.nichirei-logi.co.jp/>



・企業経営理念 (MVV) ページ
<https://nichirei-logi.co.jp/company/philosophy.html>



・「SULS」紹介動画
<https://youtu.be/uJEIBWi8O60>



・「NL+LiNk」紹介動画
https://youtu.be/OQDDhLk2w_s





選ばれつつける仕事。

ニチレイロジグループ